

## トップメッセージ



経営管理委員会会長

奥野長衛

代表理事理事長

河野良雄

### 私たちの使命

#### 農林水産業をしっかりと支えています

私たち農林中央金庫の存在意義は、「農林水産業者の協同組織を基盤とする金融機関として、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）など会員のみなさまのために金融の円滑を図ることにより、農林水産業の発展に寄与し、もって国民経済の発展に資すること」。

農林中央金庫法第一条にあるこの社会的役割は、私たち役員職員の一人ひとりが、どのような分野で仕事をしていても忘れることのない、唯一無二の使命です。私たちはその使命を果たしていくため、農林水産業や関連する産業分野に対する良質な金融サービスの提供、地域社会に根差したJAバンクやJFマリンバンクの金融事業のサポート、およびJForestの取り組む森林再生事業等へのサポートに取り組んでいます。また、会員のみなさまへ収益を還元することを通じて農林水産業の発展に貢献するという明確な目的のもと、お預かりした資金を原資に、国内外で多様な投融資を行っています。

### 農林水産業と食と地域のくらしを支えるリーディングバンクを目指して

当金庫は、7年後の創立100周年に向け、「農林水産業と食と地域のくらしを支えるリーディングバンク」という目標を掲げています。

農林水産業の成長産業化と地域の活性化が国の政策に掲げられ、協同組合に対しても新しい事業のあり方が求められており、当金庫が、JA、JF、JForestグループとともに果たすべき役割、社会からの期待は、かつてなく大きくなっています。

平成26年度には、JAグループ自己改革に呼応し、「農業所得増大・地域活性化応援プログラム」を創設しました。海外販路の拡大、6次産業化、食農教育、新規就農など、さまざまな現場の取り組みを支援しています。また、平成28年度からの中期経営計画では、これまで取り組んできた農林水産金融等を「食農ビジネス」という新たな事業領域と位置づけました。農林水産業の成長産業化に向け、金融・非金融それぞれの分野で具体策に取り組んでまいります。

## 現場の声に答える

食・環境・地域社会に深く関わる  
農林水産業をしっかりと支えていくこと。  
それが農林中央金庫の使命にほかなりません。

## 会員との大切な絆

### 引き続き、東日本大震災からの復興に寄り添ってまいります

私たちは東日本大震災の復興に取り組まれている方々のご尽力に敬意を表し、役職員一丸となって復興支援に取り組んでまいりました。

平成23年度に「復興支援プログラム」（支援額300億円）を創設し、生産者への低利融資や出資、地域の生活再建に向けた支援、会員への事業支援など、金融面の支援はもちろんのこと、営農・営漁再開に向けた資材助成や商談会の開催など、非金融面の支援も拡充しています。

しかし、各地域の復興の歩みはさまざまです。当金庫は、現場の声に寄り添い、それぞれの復興ステージに即した支援の取り組みを継続してまいります。

また、平成28年4月の熊本地震をはじめ、災害発生時には、迅速に必要な支援に取り組んでまいります。

### 農林水産業のフィールドで「現場の声に答えるCSR」を

当金庫の出資者である全国の協同組合組織は、「相互扶助」の精神のもと、一貫して日本の農林水産業の発展に貢献してきました。それは、農林漁業者を経済的に支援することはもちろん、ふるさとの風景を守り、地域のくらしを守ることでありました。

平成27年9月、国連持続可能な開発サミットにおいて、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が全会一致で採択されました。これは2030年に向けた国際社会共通の目標で、持続可能な農業の推進、海洋資源の保全、森林管理など、協同組合として本来的に取り組んできたことが多く含まれています。

私たちはいっそう心を強くして、原点である農林水産業のフィールドで、会員とともに現場の声に答えなが

ら、業務全般を通じて、その振興や地域社会・環境への貢献に取り組んでまいります。

### 会員との大切な絆 それが私たちのCSRの源泉

当金庫は、平成17年3月に「森林再生基金（FRONT80）」を、平成26年度にはその後継基金として「農中森力基金」を創設し、森林の多面的な機能の持続的な発揮を目指す活動を支援しています。また、平成19年度からは、JAバンクグループが一体となって「JAバンクアグリサポート事業」を立ち上げ、日本の農業・農村に対する支援を始めました。

さらに、農業経営者育成の取り組みとして、一般社団法人アグリフューチャー・ジャパンおよび同法人による日本農業経営大学校の運営に、全面的に協力しています。平成28年3月には第二期生13名が卒業し、第一期生に続き、全員が就農しました。

このほか、国際協同組合年記念協同組合全国協議会に参画し、協同組合の価値や役割等の周知、農林水産業以外の協同組合組織との連携に取り組んでいます。

引き続き、当金庫は着実に自らの使命を果たしてまいりますとともに、農林水産業の現場にある会員との「絆」を源泉に、みなさまへの貢献のあり方を考え、社会的な存在意義を確認しながら、農林水産業の協同組合組織のグループ全体で相互に連携し、協調してCSRに取り組んでまいります。

本誌は9回目の発行となりますが、継続して「現場の声」をご紹介することにより、私たちの取り組みを分かりやすくご説明するよう努めたつもりです。忌憚のないご意見、ご指導を賜りますよう、よろしく願いいたします。